

U.S. Indicators

米国 安定した需要のもと価格下落等で下振れ(17年6月小売売上高)

公表日：2017年7月14日(金)

～コア小売売上高は緩やかな拡大基調～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
			除く車	自動車	家具	家電	衣料品	ガソリン		
16/06	+1.0	(+3.2)	+1.1	+1.4	+0.7	+1.4	▲1.1	+0.9	+0.0	+3.6
16/07	▲0.2	(+2.3)	▲0.6	+0.9	+1.5	▲1.1	+0.6	▲0.7	▲0.2	▲3.1
16/08	▲0.1	(+2.1)	▲0.1	▲0.1	▲0.0	▲0.4	+0.2	▲0.2	+0.4	▲1.5
16/09	+1.0	(+3.2)	+0.8	+1.4	+1.7	+2.4	▲2.2	+0.8	+0.1	+3.6
16/10	+0.6	(+4.0)	+0.5	+0.6	+0.7	▲0.7	▲0.5	+0.8	▲0.1	+2.6
16/11	+0.1	(+3.7)	+0.2	▲0.0	▲0.2	▲0.3	▲0.2	▲0.0	+0.1	▲0.5
16/12	+0.9	(+4.0)	+0.3	+2.2	+3.1	▲0.9	▲0.5	+0.6	▲0.1	+3.2
17/01	+0.5	(+5.6)	+1.1	▲0.6	▲1.6	+1.8	+1.4	+0.9	+0.7	+2.2
17/02	▲0.2	(+4.7)	+0.1	▲0.5	▲1.5	+0.4	▲1.3	▲0.1	▲2.6	▲0.0
17/03	+0.1	(+4.8)	+0.3	▲0.5	▲0.5	+1.7	+2.8	+0.4	+2.0	▲1.0
17/04	+0.3	(+4.5)	+0.3	+0.4	+0.5	▲0.5	+1.8	+0.4	+0.2	▲0.5
17/05	▲0.1	(+4.1)	▲0.3	+0.4	+0.9	+0.1	▲1.3	▲0.4	▲0.2	▲3.0
17/06	▲0.2	(+2.8)	▲0.2	+0.2	+0.1	+0.1	+0.1	▲0.2	▲0.1	▲1.3

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

6月の小売・飲食サービス売上高は、前月比▲0.2%と減少幅を拡大

17年6月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比▲0.2%(前月同▲0.1%)と市場予想中央値の同+0.1%に反して、減少幅を拡大した。変動の大きい自動車売上が前月の高い伸びの反動で減少したほか、安定した需要のもと価格下落の影響等で非耐久財の減少が続き、全体を押し下げた。

内訳をみると、家電、建設資材、百貨店など一般小売が増加に転じたほか、薬局が加速した。また、家具が前月と同じ伸び率となった。一方、食品・飲料、飲食店が減少に転じたうえ、自動車・同部品、通信販売が鈍化した。さらに、ガソリンスタンド、衣料品、スポーツ用品・本・趣味用品、その他小売が減少を続けた。

6月の小売・飲食サービス売上高ではガソリンスタンドが最大の押し下げとなった一方、一般小売が最大の押し上げ

6月小売売上高の前月比(▲0.16%)の寄与度をみると、プラス寄与の業態では、百貨店を含む一般小売が+0.05%と最大の押し上げ寄与となり、通信販売が+0.04%、建設資材が+0.03%、薬局が+0.02%、自動車・同部品が+0.02%と続いた。

一方、マイナス寄与の業態では、ガソリンスタンドが▲0.10%と最大の押し下げ要因となり、次いでその他小売りが▲0.07%、飲食店が▲0.07%、食品・飲料が▲0.05%、衣料品が▲0.01%、スポーツ用品・本・趣味用品が▲0.01%となった。家具、家電は0.00%。

6月の自動車を除く小売売上高は前月比▲0.2%と2ヵ月連続減

また、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比▲0.2%と市場予想中央値の同+0.2%に反し2ヵ月連続の減少となった。家電、建設資材、百貨店など一般小売が増加に転じたほか、薬局が加速した。また、家具が前月と同じ伸び率となった。一方、食品・飲料、飲食店が減少に転じたうえ、通信販売が鈍化した。さらに、

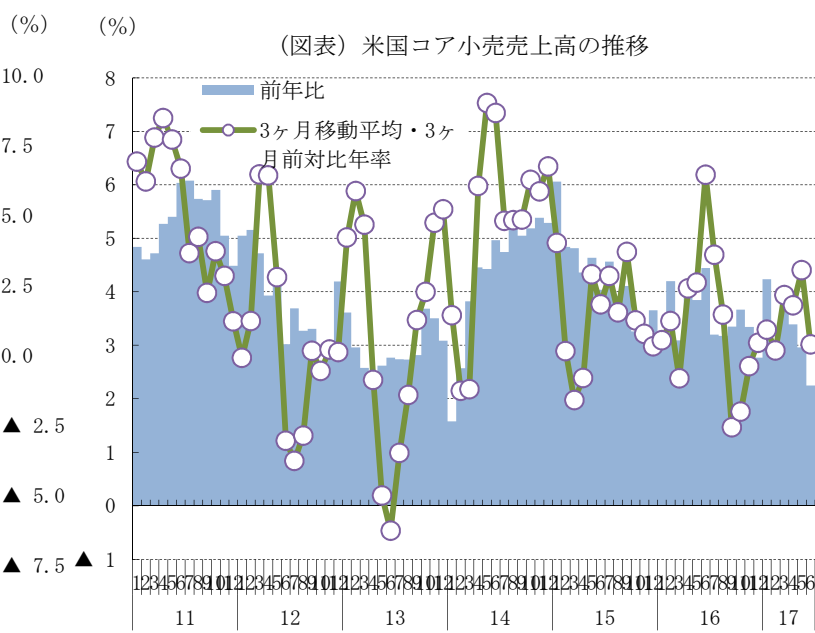
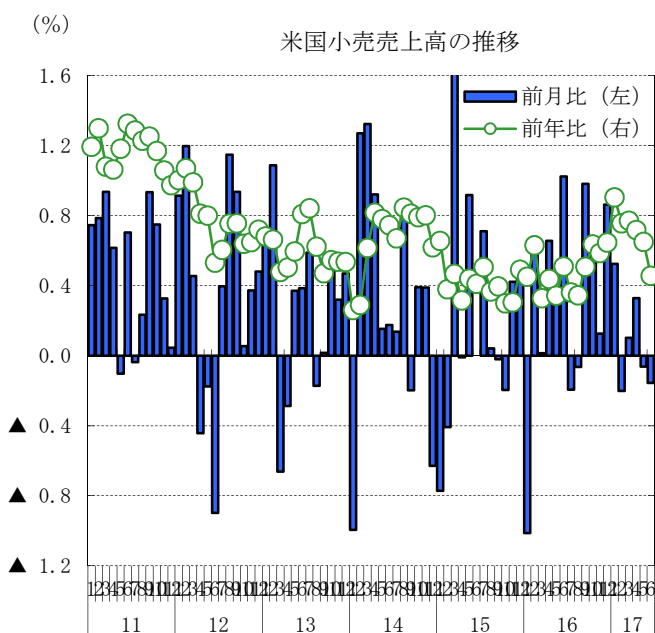
ガソリンスタンド、衣料品、スポーツ用品・本・趣味用品、その他小売が減少を続けた。

6月のコア小売売上高は、前月比▲0.2%と減少に転じ、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+3.0%と鈍化

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比▲0.2%（前月同+0.0%）と失速した。家電、百貨店など一般小売が増加に転じたほか、薬局が加速した。また、家具が前月と同じ伸び率となった。一方、食品・飲料、飲食店が減少に転じたうえ、通信販売が鈍化した。さらに、衣料品、スポーツ用品・本・趣味用品、その他小売が減少を続けた。

もともと、4－6月期のコア小売売上高（平均）は、前期比年率+3.0%（1－3月期前期比年率+3.9%）と小幅の減速にとどまっているほか、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+3.0%（前月+4.4%）と減速したが高い伸びとなっており、小売売上高の基調は堅調さを維持していると判断される。

6月の小売統計では、小売の基調を示すコア小売のモメンタムが5月から弱まったが、小売売上が緩やかな拡大基調を続けていることが確認された。税還付が増加したほか、雇用・所得の増加、株等の資産価格の上昇、消費者マインドの安定等、消費を取り巻く環境が良好なもとで、消費者は小売売上統計に含まれないサービス消費を増やしている。今後も、主に財の消費動向を示す小売売上高は緩やかな拡大を示す水準で推移する可能性が高い。



(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。